

ピンクリボンNEWS japan

2012年

9月号

発行人 特定非営利活動法人 J.POSH 編集 ピンクリボンNEWSjapan 編集委員会
 発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

J.POSH
 日本乳がんピンクリボン運動®

TOPICS

遺伝性乳癌と乳房形成との 意外な関係

今から15年前（1997年）にイギリスのテレビ番組を見ていました。番組の中で、当時非常に有名であったイギリス人の乳癌外科医が遺伝性（家族性）乳がんについて熱弁をふるっていました。その内容は、まず家族性乳がんの存在について、次に血縁の方で乳がんになった方がいる場合は遺伝子検査を受けてみるという方法があること、そしてもし遺伝性乳がんによる乳がんを発がんする可能性が高い場合は予防的乳房全切除を受け、その後乳房形成をすることも選択肢であること、ということでした。このころイギリスでは5人に1人の女性が生涯のうちに乳がんを発症するとされていましたので、家族性に乳がんが発生することは皆がよく知っていました。

ひるがえってこのころの日本はというと、イタリア人ベルノッジーの乳房1/4切除が全盛のころで、（その後円状切除、センチネルリンパ節生検が普及するのですが）予防的乳房全切除とか乳房形成なんてのは一部の乳癌外科医を除いては知識が追いついていなかった時代でした。（現代のコペルニクス医学版といったところでしょうか？）この番組を観てずいぶん日本は遅れているなー、とため息が出たことを憶えています。でも逆にどうしてイギリスではこうも簡単に予防的乳房全切除から乳房形成まで一気に話を進めることができるのだろうとつらつら考えて、いろいろ調べ行くことにしました。すると、乳房形成の普及、とくに人工素材の乳房（プロステーズ）や人工乳頭などのハード面での充実がイギリスのみならず欧米ではるかに日本より進んでいることを知り驚きました。日本では当時生食バッグを入れたり、自分の体の一部を入れる手術法しかありませんでした。この時に初めてこれが日本で見逃されている乳がん治療の一端であることに気づきました。日本での人工乳房の歴史を紐解けば、私の拙い記憶の中では、1980年の当初は人工乳房に対する規制はあまりなかったように思います。しかし、実はこのころ欧米では人工乳房（シリコンインプラント）を巡って大論争が巻き起こっていたのです。それは人工乳房（シリコンインプラント）

が自己免疫疾患や神経症状を引き起こすという大々的な訴訟が起こされたためです。（これが原因で製造元の Dow Coming 社が倒産してしまいました。）日本もこれにならって危険回避のためか、その後使用が中止されてしまい、この分野で世界から大きく後れを取ってしまったという感じがします。この訴訟問題はその後1980年代、1990年代の長きにわたって論議を巻き起こしましたが、結論として自己免疫疾患や神経症状とは因果関係がないことが明らかとなり、FDA(US Food and Drug Administration) もこの声明を出しています。これを受けて欧米では人工乳房（プロステーズ）を使った乳房形成が乳がん治療の分野でグーンと進んでいったのだと思います。その背景にあるのは、なんとといっても乳がん術後の乳房形成へのニーズが高いといったことなのでしょう。

すこし余談になりますが、遺伝性乳がんの頻度は、一昔前までは乳がんが欧米人に多く日本人に少ないので、日本人には少ないだろうと思われていました。しかし、よく調べてみると日本人でも欧米人と同じ率（乳がん全体の約8%）で遺伝的に乳がんが発症するということが分かってきました。

話をまたもとに戻します。ある日、イギリス人の乳がん患者さんがご主人の赴任で日本に来られ、日本での術後のフォローを希望されて来院されました。その方は、家族の中でお母さん、お姉さん、双子の妹さん、が全員乳がんという家系で、ご自身も右乳房に乳がんできてしまい、右乳房の全切除と左乳房の予防的全切除を受けられていました。当然、両方の乳房は見事なまでに形成されていて、手術を受けたのかどうかわからないぐらいでした。乳房をたとえ取り去ったとしてもまた新たな乳房を蘇らせる。つまり、乳房を単なる臓器としてではなく、美的存在としてトータルにとらえるレベルの高いコンセプトに驚かされました。

目次

TOPICS「遺伝性乳癌と乳房形成との意外な関係」	1
Pink ribbon world NEWS	2
乳癌 Ture-Zure 「ヴァーナスとアマゾネス」	2
名古屋ウイメンズマラソンでマンモグラフィー検査実施	3
「母の日キャンペーンにピンクリボン活動を店頭訴求」	3
「10月は乳がん月間」 10月のイベント案内	4
ジャパンマンモグラフィーサンデー	4
「命の祈り」乳がんの集い in 高野山	4
あとがき	4

遺伝情報差別禁止法が

(Genetic Information Nondiscrimination Act: GINA)

2008年5月1日に米国下院通過

遺伝子検査が今後どんどん進んでゆくのは 21 世紀の医療の確実な方向性です。いままでのように個人個人が将来どのような病気になる可能性があるかがほとんど予知できなかった時代からある程度できる時代に突入しつつあります。例えば、今は乳がんになっていないが血縁内（特に家族内）に乳がん患者さんがいる女性が遺伝子検査を受けるとします。このことによって将来自分自身がどのような確率で乳がんになるかを知ることができます。こうなるとある程度予防に努めることができる反面、意外な社会的な不利益を被ることがあります。例えば、医療保険会社や雇用主から遺伝子検査の結果で、保険の加入を断られたり、保険の資格を失ったり、会社からの就職差別や不当解雇や降格されたりする事態が発生するからです。この法律は、医療保険会社や雇用主が個人の遺伝情報に基づいて米国民を差別することを禁じた法律

です。この法律の制定によって米国民は気がねせずに遺伝子検査を受けることができるようになりました。

健康管理法が米国でスタート

(Health care law)

日本のような国民皆保険のない米国で、これを実現することを選挙公約に掲げて当選したオバマ大統領ですが、この方は国民の健康向上のために非常に精力的に政策を実行している稀な大統領です（もともとは国民皆保険はクリントン国務長官の選挙公約でもありますが）。それはさておき、この平成24年8月1日から新たな米国民の健康保護のための法律が施行されました。その内容とは、ほとんどすべての医療保険会社に加入者に対する8つのサービスや検査を無料で実施することを義務付けたことです。その8つの中には、定期的な乳がんの検査が含まれています。これでさらに乳がん検診の受診率は上がるものと期待されます。（但し、あくまで米国の話ですが…。日本ではありません。）

乳がん Ture-Zure リレーコラム 第1回

ヴィーナスとアマゾネス

リボン・ロゼ田中完児乳腺クリニック 院長 田中 完児

ともにギリシャ神話に出てくる女性です。ヴィーナス（ウェヌス）は、ギリシャ神話でのアプロディーテーと同一視され、愛と美の女神と考えられています。ルネッサンス期のサンドロ・ボッティチェリの絵画の“ヴィーナスの誕生”は非常に有名ですが、全裸の美女の姿で表されています。この絵の中で右の乳房は長い髪で覆われていて隠されていて左の乳房だけが描かれています。ヴィーナスはこのほかにも、女性の美しさを表現する際の比喩として用いられ、愛神の代名詞としても用いられ「愛」「女性」「金星」の象徴として多く用いられています。性別記号で女性は「♀」と表記されますが、本来はヴィーナスを意味する記号です。

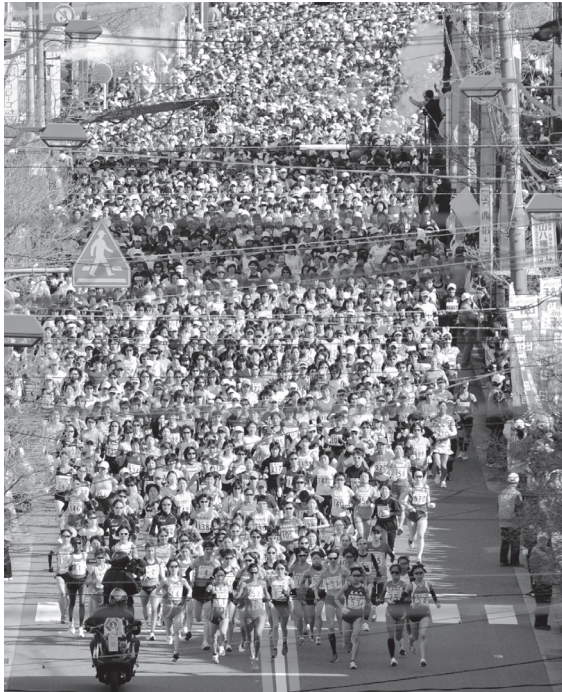
かたやアマゾネス（アマゾーン）は女性のみで構成された狩猟部族です。当時のギリシャ時代にはギリシャの北方の黒海沿岸に住んでいたとされ、このため黒海はか

つてアマゾン海と呼ばれていたこともあります。この部族は非常に戦闘に長けていて馬を飼い慣らし、弓のほか、槍や斧を使う騎士として多くの戦闘に参加していました。女性だけの部族ですから、子を産むときは他部族の男性の元に行き交わり、男児が生まれた場合は殺すか、障害を負わせて奴隷とするか、あるいは父親の元に引き渡し、女兒のみを後継者として育てたといひます。興味あるのはこのアマゾネスの語源です。これはアマゾネスが弓などの武器を使う時に右の乳房が邪魔となることから切り落としたため、“a”（否定）+“mazos”（乳）=乳無しと呼ばれたことからとされています。ちなみに南米のアマゾン川はその流域に女性みの部族がいたという伝説からアマゾネス（アマゾーン）に因んでそう名付けられたという説があります。

ヴィーナスとアマゾネス、同じ時代で同じ女性でも、同じ乳房の与える印象は全く逆です。一方は“美”の象徴、他方は“戦”の象徴。ギリシャ時代のような常に他民族との戦いの時代にあっては両方が共存することはごく普通のことであったのかもしれない。

広がるピンクリボン活動

名古屋ウイメンズマラソン 開催に合わせてマンモグラフィー検診を実施



東日本大震災から、ちょうど一年が経過した三月十一日午前九時十分。春の柔らかな日差しをあびて、一万三千人の女性がスタートしました。記念すべき一回目の「名古屋ウイメンズマラソン」。スタート地点のナゴヤドーム周辺は、色とりどりのウェアを身にまとった美ジョガーで埋め尽くされました。

全国からエリートランナーが集い、五輪や世界選手権の代表選考会になっていた「名古屋国際女子マラソン」を大マラソン化しようという構想が持ち上がったのが六年前。関係各所の協力のもと、ようやく実現にこぎつけました。

完走者にはティファニーのネックレスを贈呈。この効果か、募集開始五日間で定員に達した本大会は、世界最大規模の女性だけのフルマラソン大会としてギネスにも認定されました。

レースだけでなく、世界中の女性を応援する活動にも積極的に取り組みました。通常エントリーの参加料に寄付金をプラスした「チャリティーエントリー枠」を設け、各自が選択する支援先に寄付させていただきました。

コンセプトにふさわしい団体を、いくつか探しましたが、その一つがピンクリボンで乳ガン撲滅運動活動

をされている「J.POSH」でした。

金銭面以外にも大会として何かできないかと考え、マンモグラフィー無料検診をレース前日に開催しました。J.POSH 事務局には募集から当日の運営まで大変お世話になりました。受診いただいた方からは「なかなか機会がなかったので、良かった」と喜んでいただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

まだ産声をあげたばかりの大会です。今後、女性に優しい大会として定着、評価してもらえるよう、皆さまのさらなるご協力をお願いします。

(中日新聞社事業局スポーツ事業部 佐藤聖子)

母の日キャンペーンに ピンクリボン活動を店頭訴求

4月18日から5月13日にかけて、母の日キャンペーンに合わせて全国の大丸松坂屋百貨店 9 拠点でピンクリボン啓発活動が実施されました。期間中、募金箱を設置いただきピンクリボンの広報と検診促進を広め、「早期発見で笑顔の暮らし」を多くの人たちに関心を持っていただいたのではないのでしょうか。

オフィシャルサポーターでピンクリボン活動にご賛同いただいております、JFR カード株式会社のさくらパンダカードの紹介と乳がんの広報と合わせて展開いただきました。

各企業、自治体、メディアを通じピンクリボン広報が、更に浸透し世の女性に活き活きと、楽しい毎日を送っていただく環境づくりを皆様とともに推進していきましょう。



大丸松坂屋百貨店に設置されたピンクリボン募金箱

10月は乳がん月間

来月は、全国で各企業、自治体、メディア、各種団体が、ピンクリボンの啓発活動を実施されます。近年、各企業の社会貢献活動の一つとして、ピンクリボン活動に賛同される企業が増えています。根底にあるのは、女性のみならず人を大切にする機運が大きくなうねりになりつつあるのではないのでしょうか。一度、気軽に各種イベントに参加されてはいかがでしょうか。

イベント予定

開催日	開催時間	イベント名	開催場所	
9月30日(日)	13:00~16:00	With You KANSAI	大阪国際会議場	
10月 6日(土)	9:30~17:00	スマイルウオーク東京	東京ミッドタウン	※お手伝いお願いいたします
10月13日(土)	9:30~17:00	スマイルウオーク名古屋	久屋広場	
10月21日(日)	11:30~16:30	セレソ大阪公式試合	長居競技場	※お手伝いお願いいたします
10月21日(日)	9:30~17:00	スマイルウオーク神戸	三ノ宮	※お手伝いお願いいたします
10月27日(土)	9:30~17:00	スマイルウオーク仙台	勾当台公園	※お手伝いお願いいたします
10月28日(日)	12:30~16:40	With you TOKYO	聖路加看護大学講堂	
11月 3日(土)	12:30~16:40	With You NAGOYA	名古屋医療センター	※お手伝いお願いいたします
11月24日(日)	9:30~17:00	乳がん学会近畿地方会	千里ライフセンター	※お手伝いお願いいたします

※お問合せは、電話：06-6962-5071 Eメール：info@j-posh.com J.POSH事務局

10月21日(日)は、乳がん検診 を受けられる日曜日 ジャパンマンモグラフィーサンデー(JMS)

本年で4回目を迎えますJMSプログラム、全国の賛同いただきました医療機関や自治体の検診担当部門にて日曜日に、平日は、子育て、介護、仕事など多忙な日々を過ごされている女性のために「10月の第三日曜日に全国どこでもマンモグラフィー検査が受診できる環境づくり」への取組です。

乳がんは、早期発見で約90%の方が治るがんです。そのため是非この機会に受診されたいかがでしょうか。女性の16人に一人が罹患されています。

乳がん検査を受けられる医療施設の一覧や詳細につきましては「JMS2012特設サイト」をご覧ください。(URL <http://jms-pinkribbon.com>)

いのち 【命の祈り】乳がんの集いin高野山

10月は、乳がん月間、全国各地で様々なイベントを通じ乳がん検診受診率向上を目指して啓発活動が実施されます。

10月27日(土)、28日(日)の両日、「命の祈り」

乳がんの集いが高野山の慈尊院で開催されます。

27日の12時から慈尊院にて絵馬奉納にはじまり、祈りのウォーク、宿坊にて参加者との懇親会、28日は、写経、講演会そして大河ドラマの題字を担当された金澤翔子氏による揮毫など、盛りだくさんの内容となっております。参加ご希望の方は、乳がんいのちのプロジェクト事務局までお問合せ下さい。

(TEL 0736-33-5000)

PRNj9月号あとがき

ロンドンオリンピックも日本選手団が、史上最多になる38個のメダルを獲得し8月12日に無事終わりました。期間中、寝不足の方も多かったのではないのでしょうか。涙あり感動あり、そして多くの勇気を与えてくれた大会、それぞれの思い出を胸に刻むオリンピックだったと思います。

今回から“ピンクリボンNEWS japan”を創刊し、多くの一般女性はもとより各企業・団体、医療関係者、マスコミ、そして自治体の方々に目にさせていただくよう、増部し刷新を致しました。

最新のニュースをお届けし、さらに関心を深めていただき、乳がんの撲滅の一助になればと願っております。